

成分名	ポリオキシエチレン(160)ポリオキシプロピレン(30)グリコール
英文名	Polyoxyethylene(160)Polyoxypropylene(30) Glycol
CAS No.	9003-11-6
収載公定書	薬添規 EP NF
A TOXNET DATABASE へのリンク	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/9003-11-6

投与経路	用途
経口投与	安定(化)剤、界面活性剤、滑沢剤、可溶(化)剤、基剤、結合剤、懸濁(化)剤、コーティング剤、湿潤剤、乳化剤、粘稠剤、発泡剤、賦形剤、分散剤、崩壊剤、溶解補助剤
静脈内注射	
筋肉内注射	
一般外用剤	
直腸膣尿道適用	
皮下注射	
眼科用剤	

1. 単回投与毒性

該当文献なし

2. 反復投与毒性

2-1 ラット

ラットに非イオン性多価アルコールである Pluronic F-68 を 1 日量 0、10、20、50、100、1000mg/kg 連日 1 カ月間頸静脈に投与して、その毒性を調査した。Pluronic F-68 の 500 と 1000mg/kg で肺に泡沫細胞が出現した。100、200、500、1000mg/kg で腎臓の近位尿細管にわずかな巣状変性所見が認められた。肺の泡沫細胞の細胞脂質は、脂質が飛沫状になってリン脂質が主たる成分であった。この結果は、Pluronic F-80 は、ラットにおいてリン脂質症を引き起こすことが示唆された¹⁾。

(Magnusson G, et al. 1986)

以下については該当文献なし

1. 遺伝毒性
2. 癌原性
3. 生殖発生毒性
4. 局所刺激性
5. その他の毒性
6. ヒトにおける知見

引用文献

1) Magnusson G, et al. Toxicity of Pluronic F-68. Toxicol Lett 1986;30:203-7.

REC JAPAN SAFETY DATA